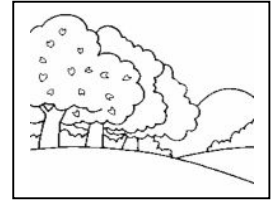


ぷらう 34号



発行：TEACCH プログラム研究会

巻頭のことば ＜発達障害と問題行動-イギリスの支援（1）＞

TEACCH 研会長 内山 登紀夫（よこはま発達クリニック）

今日はちょっと微妙な話を書く。TEACCH とは直接の関係はないかもしれないけど間接的には関係がある。

以前から一度は見学したいと思っていたイギリスの保安病院を訪問することができた。保安病院という訳が適切かどうかはわからないが、英語ではセキュアホスピタルという。精神障害や発達障害のある人で触法行為をなした人のための病院である。イギリスでは管理の厳重度などにより3段階に security hospital が分類されている。高度保安、中度保安、軽度保安と訳すのだろうか。私が訪問した中度保安病院の Ashley House と軽度保安施設の Hays Independent Hospital についてここでは紹介する。

まず Ashley House から。この House は Care Principles という団体が運営している。日本風といえば医療法人と社会福祉法人が合体したみたいな組織のようだ。支援の対象は知的障害があり問題行動や法的問題をもつ人である。日本の精神保健福祉法に相当する Mental Health Act を根拠に detain（まあ平たく言えば自由を拘束される）される人を対象にしている。目的はこういう人たちに良質で安全で保護的な環境を提供し、アセスメントとそれに基づいた治療プログラムを提供することである。アセスメントを重視することは発達障害や精神障害の人の支援の基本であってイギリスの病院や施設のホームページやパンフレットでは、必ずといっていいほどアセスメントがうたわれている。日本ではどうだろうか？また触法行為をなした人に良質のサービスをすると堂々とうたっているところも日本とはちょっと違う気がした。

われわれが訪問した Ashley House は Care Principles が運営する精神科病院の一つだ。訪問する前は、なにしろ保安精神科病院であるから、塀の高い鍵だらけのちょっと、というか、かなり陰鬱なイメージの病院を想像していた。ロンドンから2時間近く列車にゆられ、ついてみたら3月というのに雪が残りミソレのような冷たい雨が降っていて午前10時というのに雲が垂れ込め、暗かった。



駅から House まで交通機関はタクシーしかないということで、ますます人里離れたという印象だった。事前に「タクシーでいくらかかる？」とシツコク聞いたためか、スタッフの人が駅まで車で迎えにきてくれた。迎えの人も大男二人で、一人はオリバーツイストに出てくる猛犬をつれた悪人にそっくりだった。ますます陰鬱なイメージが固定していった。ところが House についてみるとちょっと拍子抜けだった。病院は人里離れたところにはあったけど、高い塀もなく、病院ぼくもなく、こじやれた企業の保養所といった外観

だった。院長は 30 代後半くらいの（といっても女性の歳を推測してあつたことはない）女性で、茶色のマニキュアをしていた（どこを見てるんだが）。「初めまして」と挨拶したら、「また会えてうれしい」と言われてポカンとしていたら、以前イギリス訪問したときに英国自閉症協会のオフィスであったことがあるし、自閉症関係の学会でも数回会ったし、彼女の教え子の医学生が日本を訪問する際に世話になったと言われて、アーと思い出した。

院長に案内してもらい各病棟やリハビリテーション棟などを見学した。見学中も入院患者（病院なので patient）が気軽に院長にファーストネームで話しかけ、院長もファーストネームで笑顔で答える。その態度がとても温かくなごやかなので感心した。患者さんの多くは軽度の知的障害を伴う自閉症の人だった。入院する前は色々な問題行動があった人たちなのだが、非常にリラックスして生活をエンジョイしているようにみえた。入院とはいうものの多彩なプログラムが準備されており、もと学校の教師を専任で採用していたことも驚いた。もちろん患者は成人なのだが、発達障害の人にとって教育はいくつになっても必要という考えなのだ。

どうでもいいことを書いていたら紙数がつきた。以下は次回に書きます。写真は院内の「学校」にあったスケジュール。この病院のスタッフの何人かは TEACCH の 5 デイセミナーを受けていた。（次回に続く・・・）

「第 7 回実践研究大会 | N 福岡」 お礼 大会実行委員 福岡支部 緒方よしみ

九州と言えども殊のほか寒さの厳しかったこの冬、1 月 28、29 日の両日、天候にも恵まれ、第 7 回実践研究大会を無事開催することが出来ました。

今回は、日本中の TEACCH 研すべての支部からのご参加をいただき、実行委員としてとてもうれしかったです。ご参会いただきました皆様、貴重な実践をご報告いただきました発表者の皆様、本当にありがとうございました。そして何より、超過密スケジュールのなか、二つ返事で基調講演をお引き受けいただきました、佐々木正美先生と門眞一郎先生おふたりに心から感謝申し上げます。

福岡での開催は 2002 年に次いで 2 度目となりましたが、前回に比べると、一段と会の進化を実感し、感慨もひとしおでした。実践研への参加人数が増えたことはもとより、実践報告者募集に関しましても、前回に比べ実にスムーズに各地から応募者を得ることが出来、ここにも確実な実践の広がりを感じました。

実践研は、トレセミと並ぶ TEACCH 研の 2 大行事ですが、トレセミに比べ、より多くの仲間たちと各地での互いの歩みを確かめあい、思いを共有し合える絶好の機会だと思います。ですから福岡の実行委員も、そんな皆さんの期待にいかにして応えようかとあれこれ考えましたが、今回はちょっとしたサプライズをご用意しました。それは、TEACCH を通して集う方々、みんないっしょに佐々木正美先生の朝日社会福祉賞受賞をお祝いしようというものでした。TEACCH プログラム研究会誕生から今日まで、その歩みをずっと見守り、励まし続けてくださった佐々木先生への感謝の気持ちをぜひみんなでお伝えしようというものでした。プログラムに無い進行に、会場には一瞬「え？」と言う空気が流れましたが、研究会の歩みを振り返るスライドショーの映像に、それぞれに思いを重ねておられるようでした。藤岡宏先生の選曲による BGM にも心を揺さぶられました。「TEACCH に関わる歴史は人それぞれですが、自閉症の方たちへの思いは同じ、だから今ここに居るのです。」会場中のそんな皆さんの気持ちが伝わってきて、パソコンを動かす私も手が震えました。何より、佐々木先生らしい謙虚でそして深いお喜びの様子が印象的でした。「佐々木先生いつまでもお元気で私たちの北極星でいてください。」心からそう願いました。

2日目の実践報告会では各分科会ごとに活発な意見交換が行われました。昨年に引き続いてのテーマだった「なぜ TEACCH は誤解されるのか Part II。誤解から理解へ」の分科会では、ありがちな他への批判や自己満足ではなく、私たち自身の実践や他への伝え方など、自らを反省し、さらに前進するための戦術的工夫なども提案され、研究会の質の高まりを感じました。

Special Thanks For You!!



悩みながら迷いながらの私たちです。こうして集い、高め合う場としての実践研究大会が今後もますます充実していくことを願っています。

ささやかですが記念品です



♪ ヘッドライト・テールライト 旅はまだ終わらない♪♪

福岡 小林泰寛さん作

第7回 実践研究大会に参加して

大阪支部 浅井 郁子

今回の実践大会は「私にとって TEACCH とは…」を改めて考えさせられる大会でした。私は平成に入ってすぐに TEACCH を知りました。「これだ」と、稲妻が走るような衝撃と感動を初めてショプラー先生の話聞きながら感じました。養護学校教諭から地域の特殊学級の担任になった年でした。

それからひたすら TEACCH を勉強することを求めて歩いてきました。佐々木先生のお話、そして佐々木先生のプロフィールをととても上手に素晴らしくまとめられたスライドを拝見し、自分の歩いてきたことを重ねて振り返り熱いものがこみ上げてきました。スライドの中には「アツいなあ」と、吹き出してしまう自分の姿もありました。佐々木先生が統合教育の良さを熱く語っておられる雑誌をまだ大事に手元に持っています。私も統合教育が素晴らしいと思っています。自閉症の子どもが混乱せず、同じ年齢の友だちと同じ活動し感動を分かち合うことができる。そのことは、本当に素晴らしいことです。場を同じにすることだけでなく「理解され、支援され、自らも理解し、活動の場を同じにする」そのことを目指し、その理念と方法を TEACCH に学びました。そしてまた自分も様々なところで活動の場を同じくするたくさんの人と出会い熱く語り合うことができました。TEACCH を学ぶことで、私の周りの子どもも私もたくさんの人と関わることで人生が豊かになったなあ。と、つくづく感じました。

自閉症も TEACCH もまだまだ誤解されている部分があります。意外とも思える点を分科会で知りました。でも、確かな実践の積み重ねがそれらを解いていってくれると思います。今までもそうしてきました。理論だけでなく確かな実践が大切です。帰路の電車の中で自分にもそのことを言いかけながら「明日のこと」を考えました。

TEACCH とは、私にとって良い仲間と良い実践を産んでくれる母のようなものでした。そろそろ親孝行もしないと、と思っています。

第7回 TEACCH プログラム実践研究大会に参加して

熊本支部 小田 浩三

基調講演Ⅰではこれまでの歴史の経過についても大変貴重なお話を聞くことができました。他にも「障害」を「特性」そして「文化」として考えていくことや「障害とは障害者と非障害者の間になる障壁」であり、だからこそ「構造化によるバリアフリーを」また「共生への希望を」といういろいろなお話についても、その一つ一つが基礎基本的なものでありながら、現場でついつい忘れがちになっていたような気もして、大変心に残る内容でした。「支援の前に、自分たちのことをまず理解してほしい」と言っていた高機能自閉症の方の言葉もとても印象的でした。最近私の現場や地域でも、支援についての話題が中心になることが多く、構造化の形ばかりが先行しているような現状も少なくないようです。理解することについて、もっと研修を積み啓発をしていく必要性を改めて強く感じました。

基調講演Ⅱでは PECS について具体的に実践例も紹介があり大変参考になりました。私の現場でもコミュニケーションについて話題になることが多いですが、具体的な支援についてなかなかイメージできなかつたり、評価や支援のポイントが共通理解できていなかつたりすることも少なくはありません。PECS の報告では、今後、さらにコミュニケーションについての話題を深めるための視点もたくさんありましたので、職場でも研修を進めていきたいと考えているところです。

分科会3では、勉強会で工夫されている事例や引継、IEP の話題などフロアからの話もたくさん聞くことができました。TEACCH の理念の一つに、親と専門家とのパートナー的関係「共同療育者」がありますが、その関係が成り立っていないようなケースもあるようでした。一番子どもが混乱するパターンは避けたいものですが、私自身もいろんな方々と話をする時になかなかうまく伝えられずにストレスを感じることもあります。しかし、「支援の前に、自分たちのことをまず理解してほしい」という言葉を忘れずに、私もまだまだ理解できていないことも多くありますが、一緒に理解していこうとする輪を広げていくことに関しては努力をしていきたいと思えます。

そんなやる気をこの実践研究大会でいただきました。ありがとうございました。

実践研究大会に参加して

神奈川支部 五味 純子

大会の第1日目は佐々木先生と門先生がお話してくださいました。佐々木先生は『TEACCH から学び日本で生かす』未来への提言」と題して、先生の TEACCH と出会うまで、TEACCH に出会ってからこれまでの自閉症研究の軌跡をお話し下さいました。先生の TEACCH に出会うまでの紆余曲折を率直に話して下さることに感銘を受け、私達が TEACCH に出会えたのは、佐々木先生がどのような実践が自閉症の方たちに役に立っているのかいつも吟味していらしたからであることをあらためて感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、「自閉症支援の最前線」というテーマで門先生がお話くださった PECS の実践も新しい効果的な取り組みとして、とても興味深く感じました。

2日目の分科会では、私は、第3分科会「TEACCH はなぜ誤解されるのか PARTⅡ～誤解を超えて～」に参加し、地域で行っている連続勉強会の実践を、保護者と療育者のペアで報告させていただきました。この分科会では私たちを含め、いろいろな立場から3つの実践の報告がありました。納富先生の巧みな司会で、フロアから TEACCH の誤解を超えるための工夫やポイントを明らかにしようという本質的な質問や意見がたくさん出され、興味深い活発なやり取りが続き、密度の濃い2時間半でした。このやり取りの中で、私達自身も、実践してきたことの意味を再確認し、皆さんが、私たちの拙い実践の意味を汲み取って、応援してくださっていることを実感して、たくさんの勇気をいただきました。ありがとうございました。

TEACCH フログラム研究会

平成 18 年度

総会 報告

平成 18 年 1 月 29 日（日）、第 7 回実践研究大会終了後、西南学院大学におきまして、平成 18 年度の総会を行いました。

総会に先立ち、以下の点について報告、紹介をしました。

* 新支部の紹介

昨年度まで京滋支部として活動してきた京都支部と滋賀支部に独立して活動することが規定の手続きを経て理事会に提案され、承認されました。

* 平成 18 年度理事及び役割（☆・・・新理事）

| 支部 | 役割 | 理事氏名 |
|-----|----------|---------|
| 常任 | 会長 | 内山 登紀夫 |
| 常任 | 副会長 | 村松 陽子 |
| 常任 | | 新澤 伸子 |
| 常任 | HP | 藤岡 宏 |
| 常任 | | 牧野 恭典 |
| 北海道 | | 志村 克美 |
| 東京 | | 岡田 祐輔☆ |
| 神奈川 | 副会長・HP | 宇山 秀一 |
| 石川 | | 出村 正栄 |
| 愛知 | | 中村 眞喜子☆ |
| 滋賀 | 研修（実践大会） | 井上 悦子 ☆ |
| 京都 | 事務局 | 野畑 光代 |
| 大阪 | 研修（実践大会） | 浅井 郁子☆ |
| 兵庫 | 広報 | 奥平 俊六 |
| 鳥取 | | 竹内 美智子 |
| 香川 | 広報・HP | 丸岡 玲子 |
| 福岡 | 研修（トレセミ） | 緒方 よしみ |
| 佐賀 | 研修（トレセミ） | 服巻 繁 |
| 熊本 | | 丸目 三奈子☆ |

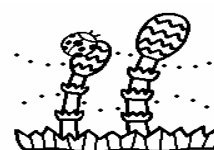


議案 1 : 平成 17 年度活動報告

1 月 22 日（土） 平成 17 年度第 1 回理事会（京都）
平成 17 年度総会

1 月 22 日（土）～23 日（日） 第 6 回実践研究大会（京都）

4 月 29 日（土） 平成 17 年度第 1 回総務委員会



機関誌『びらう』 32号(春) 発行
 6月4日(土) 平成17年度第2回理事会(京都)
 機関誌『びらう』 33号(秋) 発行
 12月25日(日) 平成17年度第2回総務委員会

議案2：平成18年度活動計画

1月28日(土) 平成18年度第1回理事会(福岡)
 1月28日(土)～29日(日) 第7回実践研究大会(福岡)
 1月29日(日) 平成18年度総会
 4月 機関誌『びらう』34号(春) 発行
 7月1日(土) 平成18年度第2回理事会
 8月11日(金)～13日(日) トレーニングセミナー(東京)
 10月 機関誌『びらう』35号(秋) 発行
 * 上記以外、必要に応じて総務委員会を数回、開催する予定。

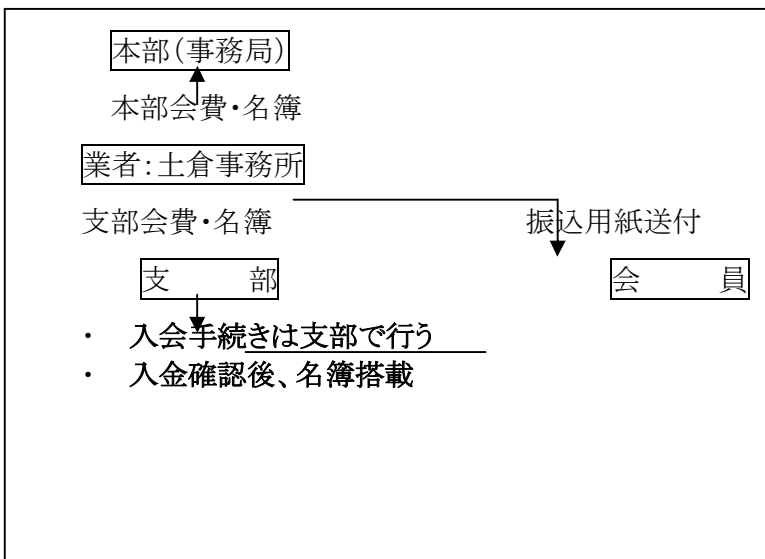
議案3：平成17年度会計報告

| | |
|------------------|-------------|
| 収入 | |
| 前年度繰越金 | ¥ 666,675 |
| 会費 | ¥ 1,841,000 |
| TEACCHカンファレンス料 | ¥ 2,840,082 |
| 第5回実践大会後金 | ¥ 262,794 |
| 第6回実践大会後金 | ¥ 469,529 |
| 利息 | ¥ 9 |
| 合計 | ¥ 6,080,089 |
| 支出 | |
| 理事会交通費(1月、6月) | ¥ 610,850 |
| 理事会会議費(1月、6月) | ¥ 16,928 |
| 総会資料印刷代 | ¥ 3,000 |
| 総務委員会交通費(4月、12月) | ¥ 135,700 |
| 総務委員会会議費(4月、12月) | ¥ 15,361 |
| 第4回実践大会運営費 | ¥ 3,182 |
| 第7回実践大会運営費 | ¥ 200,000 |
| 第5回実践大会大会録制作費 | ¥ 250,000 |
| 第6回実践大会大会録制作費 | ¥ 350,000 |
| 機関誌制作費 | ¥ 294,540 |
| 振り込み手数料 | ¥ 5,780 |
| 特別会計設立金 差 | ¥ 2,840,082 |
| 雑費 | ¥ 105 |
| 合計 | ¥ 4,925,528 |
| 収支 | |
| 収入 | ¥ 6,080,089 |
| 支出 | ¥ 4,925,528 |
| 収入 - 支出 | ¥ 1,154,561 |
| 残金 | ¥ 1,154,561 |

議案4：名簿・会費管理業務の委託について

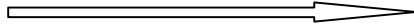
昨年度の総会で、研究会の組織が拡大し、事務的な仕事が煩雑になったことに伴い、業務の一部を業者委託することの検討を理事会で進めることを提案、了解を得、委託内容や委託先につき、理事会で検討をしてきました。

その結果、名簿および会費管理業務を土倉事務所(京都市)に委託することと、これまで本部会計で負担してきた機関誌発送代を財政事情より廃止することを提案、承認されました。
 名簿、会費管理業務を業者委託することにより、システムは以下のように変わります



- * 総会后、2月4日に土倉事務所と打ち合わせを行い、今年度の作業計画をたてました。その結果、今年度の会費請求は4月に振込用紙を送付することになりました。会員のみなさまは振込用紙が届きましたら、速やかに今年度の会費¥3,000を所定の口座に振り込んでください。
- * システムが変わることにより、お手数をおかけしますが、どうぞ、ご協力をお願いします。

議案5：平成18年度予算案



議案6：会則の改正について

会則の『入退会』および『事務局』についての改正を提案し、承認されました。

1、入退会について

【提案理由】

現行の会則では会費滞納による退会は支部規約によるとなっているが、名簿・会費管理業務を委託するに伴い、統一する必要がある。

| 収入の部 | |
|-------------------|------------|
| 前年度繰越金 | ¥1,154,561 |
| 平成18年度 会費 | ¥1,473,000 |
| 第5回実践大会大会録売り上げ | ¥ 400,000 |
| 第6回実践大会大会録売り上げ | ¥ 500,000 |
| 第7回実践大会大会録 | ¥ 400,000 |
| 合 計 | ¥3,927,561 |
| 支出の部 | |
| 名簿及び会費管理費 | ¥ 900,000 |
| 通信費 | ¥ 236,000 |
| 理事会交通費(2回) | ¥ 800,000 |
| 理事會会議費(2回) | ¥ 30,000 |
| トレーニングセミナー(東京)運営費 | ¥ 200,000 |
| ホームページ制作・運営費 | ¥ 30,000 |
| 総務委員会交通費 | ¥ 200,000 |
| 総務委員会会議費 | ¥ 20,000 |
| 第7回実践大会大会録制作費 | ¥ 550,000 |
| 第8回実践大会運営費 | ¥ 200,000 |
| 予備費 | ¥ 761,561 |
| 合 計 | ¥3,927,561 |

第2章

(入退会) 第6条

入会を希望する者は、所定の手続きを経て、支部に申し込まなければならない。

2、退会する時は、支部に通告しなければならない。

本部事務局

3、会費を滞納したものは、支部規約に従って退会したものをみなす。

1年間、会費を滞納したものは退会とみなす。

* 今回の改正で、これまで会費滞納者への対応は支部ごとに異なっていましたが、統一されることになりました。ただし、「1年間の滞納で退会となる」期日や再入会の手続きについては、次回の理事会で確認後、会員のみなさまにお知らせします。

2、事務局について

【提案理由】

現行の会則では事務局は理事が担当するとなっているが、理事に限定すると理事の任期との関係が問題となる。(理事の任期は2期4年、事務局の任期は3年)

第4章

(事務局) 第15条

本会に事務局を置く。事務局の場所については、理事会で決める。

を担当する支部は

2、事務局に担当理事を置き、3年で持ち回りとする。

は

議案7：TEACCH部より講師招聘による研修会の開催について

【提案】

1、ねらい

TEACCHプログラム研究会として、TEACCH部との交流を継続的・定期的にもつことにより、自閉症の理解と支援についてTEACCHからより深く学ぶとともに、我々の実践をTEACCH部のスタッフと一緒に議論して、よりよい実践に結びつける。

2、内容

①日本での実践を報告し、TEACCH部の専門家からスーパーバイズを受ける。

②特定のテーマについてTEACCH部専門家による講演。

- 3、開催
 - ①2年に1回程度、2日間のプログラム
(1日目 講演・2日目 実践報告とスーパーバイス)
 - ②実践研究大会を隔年に開催し、招聘研修と交互に開催する。
- 4、事業運営
TEACCH 研本部事業に位置づける。
- 5、他団体との調整
開催期日・場所について、他団体による TEACCH 部の専門家の招聘プログラムとの調整を図る。(重ならないように配慮する)→西日本で、1月下旬～2月上旬が候補
- 6、実施方法について
当面、総務委員会で担当を決めて企画運営の中心になる。(開催地支部の手伝いは必要)
- 7、その他(開催規模・参加費などについて)
 - ①予算は最低 400 万円程度必要
 - ②会員外にも公開する。参加費は会員と区別する。
 - ③事務業務は外部に委託する。
 - ④大会の運営については簡素化する。
 - ・ 大会録は基本的に作成しない。
 - ・ 来賓招待は行わない。
- 8、第 1 回のテーマ・開催地・時期の候補
 - ①テーマ：学校教育
 - ②開催地：京都
 - ③開催時期：平成 20 年



議案 8：研究会ホームページの開設について

<下記参照>

TEACCH研 ホームページ開設

昨年の総会において「TEACCH 研のホームページを作って欲しい」とのご意見をいただき、6月の理事会において、プロジェクトチームを結成し、その後半年間かけ作成し、ようやく開設となりました。現在、大方の部分は完成していますが、まだまだのところもあり、すこしずつ更新してゆきたいと思います。このホームページは会員の皆さんや TEACCH 研に関心を示してくださった方への情報発信サイトとなってゆけばと考えています。会員の皆さんへは会員専用ページ(パスワードあり)を設け、初回からのぶらうバックナンバーを公開し、実践研、トレーニングセミナー報告も公開してゆきたいと考えております。よろしくお願ひします。

ホームページアドレス www.teacchken.com
 会員専用ページパスワード (ID teacchken)
 (PW xxgixn)



会員パスワードは「ぶらう」発行ごとに変更してゆきます

新支部紹介～！

本年度より、京滋支部が二つに分かれ、〈京都支部〉と〈滋賀支部〉になりました。

〈京都支部〉

このたび滋賀支部と発展的な分離として新しく支部を立ち上げることになりました。ここ数年例会を滋賀で行うことが多く京都からの参加者が少なくなっていたこと、運営についても勢いのある滋賀の皆さんに内実は頼り切っていたことなど、不安を持ちながらのスタートですが、これまでのあゆみを大切に引き継ぎ、京都らしい活動ができればと思っています。

近年ありがたいことに京都でも自閉症に関連する様々な学習会がいろいろな団体主催で多く行われるようになってきました。そこで、これまでも共催、後援といった形で連携をとってきた自閉症協会だけでなく、京都市発達障害者支援センター、生活支援センターあすく、高機能自閉症児・者らの親によるオンリーワンの会といった自閉症関連団体とも連携を取り、各研修会の日程調整や研修会の目的などを交流しそれぞれの持ち味を生かした研究会を運営していこうとしています。

障害理解の基礎講座、講演会、トレーニングセミナー等が他の団体で企画される中、TEACH研究会の役割は何だろうといった問い直しを行い、学んだことを実際に実践してみても悩み、疑問に思い、迷っていること、発見したこと等を交流することで、互いの実践を高めていけるような研究会を運営していければと考えるようになりました。また、保護者、医療、就学前機関、学校、成人福祉といったいろいろな立場の人が、それぞれの視点から語り学んでいける場であることも大切にしていきたいと思っています。

人数も企画もごちんまりとした研究会になるかもしれませんが、ここに来れば元気になって明日からの実践が楽しみになるような会にしたいと思っています。また、今後更にこの研究会のあり方を問い直しながら、よりよい研究会を創っていければと思っています。

〈滋賀支部〉

京滋支部から一步踏み出したばかりの滋賀支部は3月に総会を開き、53名会員の新たなスタートです。3月の例会では地域の小学校のベテランの先生や、「4月から養護学校に新任です。」という頼もしい先生も…。保護者の参加もありました。

京都から独立をして頑張りま～す。



第14回 自閉症児者のためのトレーニングセミナー

日程と募集

TEACCHプログラム研究会では、1989年以降トレーニングセミナーを各地で開催してまいりました。2006年度、第14回目のセミナーは東京で開催されます。本セミナーは、自閉症の人たちへの治療、教育、福祉に携わっている方を対象に、自閉症への理解を深め、支援技術のさらなる習得を目的としています。過去に多くの方が受講し知識と技術を身につけ各地でご活躍されています。さらなる理解・技術向上のために奮ってご参加下さい。

1. 会 期 平成18年8月11日(金)～13日(日)

2. 場 所 八王子市南大沢文化会館

八王子市南大沢2-27 (0426-79-2212)

新宿駅より京王線利用で約40分 京王相模原線南大沢駅より徒歩3分

3. トレーナーおよび講師

中山清司氏(京都市発達障害者支援センター)

村松陽子氏(よこはま発達クリニック)

五味純子氏(神奈川県大和市障害福祉課)

重松孝治氏(大阪府立藤井寺養護学校)

岡田祐輔氏(西多摩療育支援センター)

4. 申込資格 自閉症児・者の治療、教育、福祉に携わる専門職でTEACCHプログラム研究会会員対象。未加入の方は入会手続き後、お申し込み下さい。また、セミナー3日間全日の受講が可能な方に限らせていただきます。入会については最寄りのTEACCHプログラム研究会各支部へお問い合わせ下さい。

5. 受講費 5万8千円(昼食費込み。懇親会費別途。宿泊は必要に応じて各自)

6. 定 員 20名(4グループ)選考させていただきます。

7. 申込期間 平成18年5月1日～5月14日(期間内消印のものを対象)

8. 申込方法 申込書に必要事項を記入し、郵送でお申込ください。FAXは受け付けません。受講の決定者にはメールで通知いたします。(連絡事項はすべてメールでおこないます)不明な点はメールでお問合せください。

問合せ・申込宛先 メールアドレス:teacchtokyo@yahoo.co.jp

〒190-0004 立川市柏町1-8-1-408 石原まゆみ方

TEACCH 研東京トレセミ実行委員会事務局

各支部活動計画

北海道支部活動計画

北海道支部では、1月17日（火）支部総会が行われました。今年度の勉強会は、より実践的なものにしたいということで、定例の勉強会として基礎講座を企画しています。新たな試みです。今回の講座は講義編と実習編の2回に分けて進めていくように考えております。たくさんの方の参加を期待したいと思います。勉強会の予定は以下の通りです。

| | | | |
|-----|-----------------|----------------|----------------------|
| 第1回 | 1月17日（火） | 「自閉症スペクトラムの診断」 | |
| | | 講師 高橋 和俊 氏 | （ゆうあい会石川診療所長） |
| 第2回 | 5月20日（土）・21日（日） | 「基礎講座 一講義編一」 | |
| | | 講師 諏訪利明 氏 | （海老名市わかば学園） |
| | | 緒方 よしみ 氏 | （東福岡養護学校） |
| | | 会場 | 北海道教育大学函館校 |
| | | 定員 | 100名 |
| 第3回 | 7月 8日（土）・ 9日（日） | 「基礎講座 一実習編一」 | |
| | | 講師 緒方 よしみ 氏 | （東福岡養護学校） ※他、調整中 |
| | | 会場 | 北海道教育大学附属養護学校 きりのめの家 |
| | | 定員 | 20名 |
| 第4回 | 9月12日（火） | 実践報告1 | （*基礎講座参加者より） |
| | | 会場 | 北海道教育大学函館校 |
| 第5回 | 11月14日（火） | 実践報告2 | （*基礎講座参加者より） |
| | | 会場 | 北海道教育大学函館校 |

《問い合わせ先》

TEACCH プログラム研究会 北海道支部 事務局

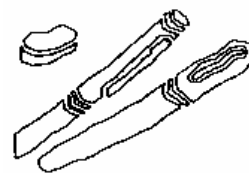
〒041-0802 函館市石川町90-7

北海道 発達障害者支援センター あおいそら内（井出）

Tel (0138) 46-0851 /

Fax (0138) 46-0857 /

E-mail aoisora@ms6.ncv.ne.jp



石川支部活動計画

- ・ 1月15日(日) 第4回 総会
講演会 中川信子さん
(言語聴覚士「子どもの発達支援を考えるSTの会」代表
NPO法人「ことのはサポート」副理事長)
場所 金沢駅西健康ホール「すこやか」
- ・ 2月19日(日) 9:30~12:30 第25回例会 場所 金沢市教育プラザ富樫
講演 新井田要さん(金沢大学医学部)
「自閉症の医学的側面について」
実践報告 岡田申一さん(精育園)
「強度行動障害の兄弟への支援・・・構造化のようなこと」
- ・ 3月19日(日) 9:30~12:30 第26回例会 場所 金沢市教育プラザ富樫
講演 武蔵博文さん(富山大学教育学部)「支援ツールについて」
支援ツール作成の実践 チャレンジ日記・サポートカード
- ・ 4月23日(日) 9:30~12:30 第27回例会 場所 金沢市教育プラザ富樫
講演 熊谷高幸さん(福井大学教育地域科学部)
「自閉症 私とあなたが成り立つまで」 新書の内容解説
- ・ 5月14日(日) 9:30~12:30 第28回例会 場所 金沢市教育プラザ富樫
- ・ 6月24日(土) 午後 講演会 それいゆ 服巻智子さん
「自閉症・アスペルガーの理解と支援」
場所 金沢駅西健康ホール「すこやか」
- ・ 7月29日(土) 午後 第29回 例会 場所 金沢市教育プラザ富樫
講演 中川弥生さん(高槻市)
- ・ 9月10日(日) 9:30~12:30 第30回 例会 場所 金沢市教育プラザ富樫
学童保育実践報告 笠合竜明さん 手をつなぐ親の会(施設職員)
- ・ 10月、11月、12月 その他講演会及び 第31回例会、第32回例会
第33回例会予定
例会は概ね日曜日の9:30~12:30 場所は金沢市教育プラザ富樫

東京支部活動計画

| | | | |
|---|----------------------------|------------------------------------|---|
| 1 | 3/11(土) 13:00~ 16:10 | 定期総会 特別講義 藤岡 宏 先生 つばさ発達クリニック | 「巣立つ日のために 自閉症の人たち への支援を考える」 渋谷区代々木八幡区民会館 |
| 2 | 6/10(土) 13:00~ 16:30 | 実践研究大会報告 東京都立七生養護学校教諭 事例検討会 | 「支援システムの構築」 自閉症、知的障害の特性に応じた学年 担任集団及び学校内支援の連携 ～小学部1年からはじめる取り組み～ 東京都立七生養護学校 |
| 3 | 8/11(金)~ 13(日) | トレーニングセミナー | 「自閉症療育者のための 3day トレーニングセミナー」 南大沢文化会館 |
| 4 | 8/11(金)~ 13(日) | 公開講座 | 自閉症の特性、構造化、評価、 コミュニケーション 等 南大沢文化会館 |

| | | | |
|---|---------|-------|-----------------------|
| 5 | 11/5(日) | 事例検討会 | 「学校、地域、家庭の支援」 会場未定 |
|---|---------|-------|-----------------------|

東京支部事務局 〒206-0822 稲城市坂浜 1951-5 パナソニックビル
Fax: 0424-82-6755 (渥美)、メール: teacchtokyo@yahoo.co.jp (木下)

神奈川支部活動計画

| | 内容 |
|---------------|--|
| 1月28(土)～29(日) | 第七回実践研究大会 IN 福岡 |
| 2月22日(水) | 【共通】神奈川支部総会&ゲストスピーカーによるミニ講演会 |
| 3月15日(水) | 【基礎】「余暇と社会性について」 講師 諏訪 利明 【応用】「WISCをどう読むか」 |
| 4月19日(水) | 【ミニ講演会】「僕のみたノースカロライナの教育」 |
| 5月17日(水) | 【基礎】「課題分析 -自立にむけて-」 講師 諏訪 利明 【応用】「行動マネジメント」 |
| 6月21日(水) | 【ミニ講演会】「大人になった自閉症」 |
| 7月19日(水) | 【基礎】「コミュニケーションについて」 講師 諏訪 利明 【応用】実践報告 |
| 8月23日(水) | 【ミニ講演会】「グループホームでの実践」 |
| 9月9日(土) | 【講演会】「PECS実践-自閉症のコミュニケーション指導の実際-」 (講師) 京都市児童福祉センター 門 眞一郎 先生 |
| 10月18日(水) | 【基礎】「TEACCHの理念」 講師 諏訪 利明 【応用】「コミュニケーション -PECS-」 |
| 11月15日(水) | 【基礎】「自閉症の特性について」 講師 諏訪 利明 【応用】「学校の実践」 |
| 12月13日(水) | 【合同】「CARS」 講師 諏訪 利明 |

勉強会はすべて ふきのとう向生舎3階において18:30より開始

TEACCHプログラム研究会 神奈川支部事務局 宇山
〒242-0022 神奈川県大和市柳橋5-2-7 県央療育センター内
【TEL】080-3250-2115 【FAX】046-269-0067
【e-mail】teacchkanagawa@yahoo.co.jp

愛知支部活動計画

自閉症の人との関わり方がわからない—
 どうしたらいいのか、とにかく困っている—
 いっしょに勉強しませんか?
 —2006年1月—

愛知支部入会案内の始めの言葉です。
 自閉症の方との関わり方を勉強しましょうというのが愛知支部のモットー。

大きな講演会の開催と共に、継続して行う小さい勉強会も少しずつ広がっています。
今年の愛知支部テーマは「高機能自閉症児・者のかかわり」です。去年は「成人の問題」でした。
ホームページも立ち上がり元気です。

◇18年度活動計画

- (1) 講演 2/26 (日) 講師：門真一郎先生「自閉症の方のコミュニケーションについて」＊
総会 5/13 (土) 講師：もびいさん 「ご本人からのお話」
- (2) 中級講座 6/25(日) 10/22 (日) 一日予定
講師：諏訪利明先生「講演と実習」
- (3) 実践報告会 7月29日 講師：野畑光代先生（養護学校教諭）
- (4) 事例検討会 12月16日 学童期の事例
- (5) 託児
- (6) 会報発行
- (7) T-AICHI メーリングリスト
- (8) その他 勉強会支援

滋賀支部活動計画

TEACCHプログラム研究会滋賀支部は、2006年1月より京滋支部から分離し、新しくスタートすることになりました。例会では、実践報告を中心に話題を提供していただき、それを元に会員間で討議し、自閉症や TEACCH プログラムへの理解を深めたいと考えています。また同時に、日々の実践の中での疑問や行き詰まりを解消できる場にしていきたいと考えています。

- 3月 4日 (土) 13:30~16:00 場所：近江八幡人権センター
＜子どもたちから学んだこと～「わかって楽しい」をめざして～＞
彦根市立河瀬小学校 堀居敬子氏
- 4月 1日 (土) 13:30~16:00 場所：近江八幡人権センター
＜K君との3年半～なぜ泣くの？からの出発～＞ こじか教室 藤井依子氏

- 滋賀自閉症研究会たんぽぽ「自閉症理解のための連続セミナー」
- ◇ 5月20日 (土) 13:30~16:30 場所：守山市民ホール
＜自閉症総論 (仮題)＞ 京都児童福祉センター児童精神科医 田中浩一郎氏
 - ◇ 6月17日 (土) 13:30~16:30 場所：近江八幡文化会館
＜受容性コミュニケーション (仮題)＞ 横浜市中部地域療育センター 幸田栄氏
 - ◇ 7月15日 (土) 13:30~16:30 場所：近江八幡文化会館
＜表出性コミュニケーション (仮題)＞ 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科 服巻繁氏
 - 9月 2日 (土) 13:30~16:00 場所：近江八幡人権センター (予定)
＜作業所での実践 ～自立した作業活動～＞ さわらび作業所 塩木崇弘氏
 - 10月 7日 (土) 13:30~16:00 場所：近江八幡人権センター (予定)
＜高機能自閉症生徒の就労支援＞ 雲養護学校 井上悦子氏
 - 12月 2日 (土) 13:30~16:00 場所：近江八幡人権センター (予定)
＜成人期の余暇支援 (仮題)＞ ステップあっぷ21 吉川知則氏

◇TEACCHプログラム研究会滋賀支部会員の参加が原則ですが、会員外の参加も受け付けていますので、関心のある方はご参加ください。（参加費：会員は無料、会員外は1000円。例会時に入会受付もしています。年会費3000円。）

◇新入会員の方やTEACCHプログラムを基礎から正しく理解したい方には、「滋賀自閉症研究会たんぼぼ」の主催する「自閉症理解のための連続セミナー」への参加もお勧めします。なお、連続セミナーは「たんぼぼ」のご厚意により、TEACCH研会員は、たんぼぼの会会員と同等の参加費で参加できます。滋賀支部の例会の一部として位置づけていますので、積極的にご参加ください。

<問い合わせ先> TEACCHプログラム研究会滋賀支部事務局 藤井 依子
FAX 077-562-8680 e-mail teacchshiga@oo.em-net.ne.jp

京都支部活動計画

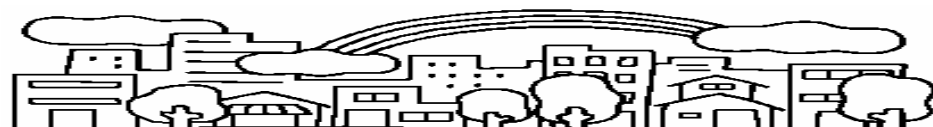
支部立ち上げの年ということで、第一回の総会と合わせて「支部立ち上げ会」を行い、京都でのTEACCHを語る会を企画しました。4回の例会では学齢期と成人期について、実践報告を受け、後半は少人数でのディスカッション形式で学びあっていきたいと計画しています。

また、滋賀支部との合同企画として今年度は施設見学を企画中です。これまでの講演会とはまた違った学びの機会になると期待しています。

- ◆ 4月 1日（土） 支部総会と京都支部立ち上げイベント
（京北やまぐにの郷ハンドベル演奏・TEACCHを語る会）
- ◆ 4月29日（土） 例会：成人期における各所との連携に関する実践
山科サービスセンター「ぶらんこ」
- ◆ 9月23日（土） 例会：養護学校における地域および校内の支援の実践
京都市立呉竹総合養護学校
- ◆ 10月28日（土） 例会：養護学校小学部における実践
京都府立南山城養護学校
- ◆ 11月25日（土） 例会：成人期の実践
NPO法人 生活支援センター「あすく」

※ 滋賀支部との合同企画は現在企画検討中で時期は未定です。

《京都支部連絡先》 feather0562@yahoo.co.jp



大阪支部活動計画

会 場 : 堺市総合福祉会館 大研修室
月例会

- ★5月20日(土) テーマ:「自閉症の理解」 講師:鈴木 典子氏
(ボバース記念病院 小児神経科医師)
- ★6月 3日(土) 特別講座:「TEACCHに学んだこと」 講師:中山 清司氏
(京都市発達障害者支援センター、横浜やまびこの里 専門員)
- ★7月 8日(土) テーマ:「評価について」 講師:安田 泰代氏
(池田市立やまばと学園)
- ★9月 9日(土) テーマ:「構造化」 講師:谷山 悦子氏
(河内長野市立小山田小学校 教員)
- ★10月14日(土) テーマ:「コミュニケーション」 講師:新澤 伸子氏
(大阪府発達障害者支援センターアクトおおさか センター長)
- ★11月11日(土) テーマ:「問題行動の理解と支援」 講師:長富 義隆氏
(自閉症児支援センターSun 主査支援員)

★公開講座

日時:平成18年12月10日(日)午後2:00~4:00(受付1:30~)

テーマ:「成人期の自閉症者の理解と支援」

講師:服巻 智子氏(それいゆ相談センター センター長)

会費:会員 500円 / 非会員 2000円

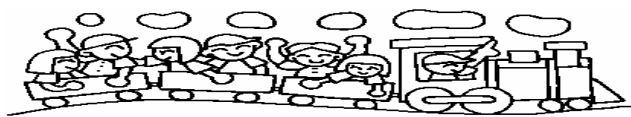
会 場 : 堺市総合福祉会館 大研修室

<事務局> 北摂杉の子会 <haginomori@nifty.com>

兵庫支部活動計画

兵庫TEACCH設立以前から神戸で活動してきた「自閉症の子どものクラスルーム・研究科」の講演会、同様に篠山市・丹波市を中心に活動してきたTAS(丹波自閉症協会)、TAS-P(親の会)、TAS-T(教師の会)の研究会は、それぞれ兵庫TEACCH協賛ということになりました。

たとえば4月9日(日)にこうべ市民福祉交流センターで自閉症の子どものクラスルーム・研究科が開催した幸田栄氏(横浜市中部地域療育センター)の「自閉症の理解と支援ー 幼児期の実践を中心にー」、あるいは4月15日(土)に篠山市丹南健康福祉センターでTAS-Pが開催した奥平綾子「自閉症の息子と過ごし合う暮らし、右往左往、しどろもどろ」などを協賛しています。神戸のクラスルームとTAS、合わせて年間10回程度の講演会を計画していますが、兵庫TEACCH独自に基礎講座も計画中です。今後もMLを通して県内の情報を広報していきたいと思っています。



鳥取支部活動計画

| | 支部 | 鳥取 | 境港 |
|-----|-----------|--|--|
| 1月 | | 実践報告（羽合ひかり園・松の聖母学園） | 輪読：TAKAMUARA ノート |
| 2月 | 総会・セミナー報告 | | 輪読：TAKAMUARA ノート |
| 3月 | | 報告（第7回実践研究大会） | 輪読：TAKAMUARA ノート |
| 4月 | | 報告（ドナ・ウィリアムズ氏セミナー、TEACCH モデル実践報告会） | 輪読：TAKAMUARA ノート |
| 5月 | | CARS 1 | 基礎講座 |
| 6月 | | CARS 2 | 基礎講座 |
| 7月 | | コミュニケーションサンプル | 基礎講座 |
| 8月 | | PECS | 基礎講座 |
| 9月 | | 実践報告 | 課題分析（自立のワーク・余暇・生活スキル） |
| 10月 | | 実践報告 | 事例発表（自立のワーク） |
| 11月 | | 実践報告 | 事例発表（生活スキル） |
| 12月 | | 実践報告 | 事例発表（余暇スキル） |
| 定例会 | | 第3火曜日 18:30～20:30 場所：県立鹿野かちみ園（第2鹿野かちみ園） | 第4木曜 19:00～21:00 場所：境港市児童発達相談センター陽なた *研究会参加報告は随時行う |

今後の予定

佐々木正美先生講演会 2007年7月22日（予定）

<鳥取支部事務局>

事務局担当 日笠 真理子 ☎ 0857-21-8811

香川支部活動計画

基本的に第3日曜日に勉強会開催しています

| 月日 | 学習内容 | 講師 |
|-------|---|---------------------------|
| 2月19日 | （平成18年度新規会員総会） 家庭でできる構造化のアイデア ～今日から使える実践ヒント&支援グッズ紹介～ （実践研究会報告） | 保護者（支部理事） 丸岡 玲子氏 |
| 3月12日 | 香大附属養護学校での研究と実践の紹介 | 香川大学教育学部附属養護学校 植松 克友先生 |
| 4月16日 | 特別支援教育～すばるの実践より～ | 香川大学教育学部附属養護学校 馬場 広充先生 |
| 5月21日 | TEACCH プログラムの考え方について | 香川大学教育学部附属養護学校 西村 健一先生 |
| 6月18日 | 学校での実践報告 | 香川県立香川中部養護学校 荒井 佳子先生 |
| 7月16日 | 障害をもつ人達へのコミュニケーション支援 | 香川県立香川東部養護学校 高原 淳一先生 |

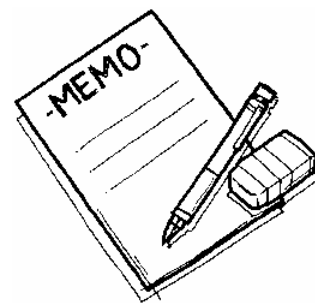
| | | |
|--------|---------------------------------|--|
| 9月17日 | タイトル未定 | 障害児・者地域療育等支援事業コ ーディネーター 草原 比呂志先生 |
| 10月22日 | タイトル未定 | 香川大学教育学部 坂井 聡先生 |
| 11月26日 | ☆公開講演会 (会員外の方もご案内します) | 海老名市立わかば学園園長 諏訪 利明先生 |
| 12月17日 | 自閉症への医療面からのアプローチ (平成18年度末総会) | 香川大学教育学部 繪内 利啓先生 |

《香川支部事務局》香川県立香川東部養護学校内 池上 勝治
 TEL 0879-52-2581 FAX 0879-52-2597
http://members.at.infoseek.co.jp/teacch_kagawa/main.htm

佐賀支部活動計画

| 期日 | 講義 | 講師 | 事例発表 |
|----------|-----------------|--------|------|
| 4月8日 | TEACCHの支援の考え方 | 服巻繁 | |
| 5月20日 | 構造化による指導の概要 | 進藤久美子 | |
| 6月10日 | 講演会 | 藤村出先生 | なし |
| 8月 | それいゆ見学ツアー | 水野敦之 | |
| 9月30日 | 講演会(コミュニケーション?) | 門真一郎先生 | なし |
| 10月21日 | 問題行動の理解と対応 | 伊藤啓介先生 | |
| 11月25日 | 行動分析的指導技法—課題分析 | 服巻繁 | |
| 12月16日 | IEP、ITPと家庭—学校連携 | 進藤久美子 | |
| 1月20日 | IHPと就労、関係機関連携 | 水野敦之 | |
| 2月10日 | 講演会(高機能自閉症?) | 服巻智子 | なし |
| 2月17,18日 | TEACCH 研実践大会 | | |

今年度は、TEACCHアプローチの基本を押える「講義」、それを養護学校や施設現場で実践した内容を発表する「事例発表」、著名な実践家からより進んだお話を伺う「講演会」の3本柱で実施します。昨年度の反省を踏まえ、講義では毎回アンケートを実施し次回に講師がフィードバックを行うこと、なるべくディスカッションや演習の時間を設けてより積極的な参加を促すなどの工夫を行います。また、TEACCHアプローチの実践を直に見学できる「それいゆ見学ツアー」も新規に企画しています。



福岡支部活動計画

| | 内 容 |
|--------|--|
| 4月15日 | 自閉症専門の民間療育教室での取り組み (NPO 法人 TOUCH) 自ら行動できるようになるための支援—集団作りの工夫—(東福岡養護学校) |
| 5月20日 | ハルヤンネさん講演会 |
| 6月17日 | 講座:「自立課題について」 |
| 7月15日 | 実践報告:「就労について(仮)」 |
| 8月19日 | 講演:「TEACCH見聞録(仮)」 |
| 9月16日 | 講座:「コミュニケーションについて」 |
| 10月21日 | 実践報告:「成人期の支援(仮)」 |
| 11月18日 | 講座:「行動管理について」 |
| 12月16日 | 総会・講演会 |

熊本支部活動計画

| | | | |
|------------|-----------------------|--|-----------------------------|
| 1月21日(土) | ミニ総事前④ 総会 実践報告会 | ミニセミ事前学習会 総会 「家庭での実践」 | 会費納入 世話人会は各研修会後に実施予定 |
| 1月28-29日 | 実践研究大会 in 福岡 | 第7回 TEACCH 7° 7m 研究会実践研究大会 *理事交代のため新旧理事参加 | |
| 2月17-19日 | ミニセミ | 「構造化と家事スキル」 諏訪利明氏・中山清司氏 | |
| 3月18日(土) | ミニ総事後⑤ | ミニセミ報告Aグループ | |
| 4月15日(土) | ミニ総事後⑥ | ミニセミ報告Bグループ | |
| 5月20日(土) | 基礎講座Ⅰ | 「自閉症の特性の理解」 | |
| 6月17日(土) | 基礎講座Ⅱ ミニ総事前① | 「構造化と実践」 | |
| 7月15日(土) | 基礎講座Ⅲ | 「問題行動への理解と対処」 | |
| 8月19日(土) | ミニ総事前② | 「コミュニケーションの評価と指導」 | |
| 10月21日(土) | 実践報告会 | 学校、家族、施設 | |
| 11月18日(予定) | 講演会 | 未定 | |
| H19年3月3-4日 | ミニセミ | 「コミュニケーション」予定 | |



第14回 自閉症療育者のためのトレーニングセミナー受講申込書

| | |
|-----------|--------|
| 事務記 入欄 | No. |
| | 月 日 受理 |

| | | | | | |
|--|-------|-----|-------------|--------------|--------------------------------------|
| ふりがな | | | | 性別 | 男 ・ 女 |
| 氏名 | | | | 年 月 日生 (才) | |
| ふりがな | | | | | |
| 住所 | 〒 | | | | |
| 連絡先 | 電話番号 | | メールアドレス | | |
| | ファックス | | 緊急連絡先 | | |
| 勤務先 | | | 職種・ 仕事内容 | | |
| 所在地 | 〒 | | | | 〔連絡発送先〕 自宅 ・ 勤務先 (一方に○をおつけ下さい) |
| | TEL | FAX | | | |
| トレーニングセミナーの経験はありますか？(ある方はどちらのトレーニングセミナーですか？) あり(参加トレーニングセミナー名:) なし | | | | | |
| [これまでの経験と、トレーニングセミナー参加を志望された動機をご記入下さい。] | | | | | |